

米・日本人女性白骨遺体事件

「自か殺」人夫「似ターベ

過去に

元交際女性が証言



識者が今後を解説

亡くなった小川文子さん(41歳時)と判明した事件で、ハワイ在住の米国人の夫(43)について過去の殺人告自を聞いた」と元交際女性が証言するなど疑念が広がっている。事件から4年も過ぎた「コールドケース(未解決事件)」は果たして解明できるのか。ポイントを識者に聞いた。

元東京都監察医務院長・上野氏「ポイントは頭蓋骨」

事件解決の糸となる1点目は死因の特定だ。小川さんは2007年1月に行方不明となり、同月20日にサンディエゴの自宅から約100m離れたアンザボロ砂漠の穴から見つかった。遺体はすでに白骨化しており、動物に食いつけられるが、検視では首元だけでなく、死因も特定

されないうえに、ただ、十分な捜査ができていない可能性もある。遺体発見場所はメキシコ国境との近くで不法入国者の遺体と判断され、事件性を疑われなかったからだ。「死体は語る」の著者で元東京都監察医務院長の上野正彦氏(82)は「遺体を探検するところになると思うが、頭蓋骨が残っているかどうかポイント」と指摘する。

殺害されたとなれば、その痕跡は頭蓋骨に顕著に表れるという。「首を絞められたとすれば顔がうつむする。血液

FBI連邦捜査官・荒木氏「証言は捜査の材料に」

米捜査事情に詳しい米FBI連邦捜査官の荒木秀一氏(47)は「日本と違って米国は状況証拠だけでなく強引に生真摯取で自分に追い込む捜査スタイル。平気でカズをわけ

は頭蓋骨にも分布しており、骨の中の血液が多く。リストで腹を撃たれたとすれば、出血しているから逆に頭蓋骨は真っ白になる。頭蓋骨はいろんな情報が埋まっているが、研究している医師でないと見落とす。今からでも調べるのは遅くはない。動物に傷つけられるのも手足や腹が多く、頭蓋骨は残っている可能性が高い」

薬物殺人を除けば死因の特定は難しくないという。さらにこの1点は当時の状況を知る夫の追及だ。本紙既報通り、夫はプロレスラー、ビギンバ

るし、手段を選ばない」と指摘する。夫は複数の日本人女性と金銭トラブルを引き起こしており、「一部報道では交際していた女性から」「(夫の)過去の殺人告自を聞いた」との証言も飛び出している。

「証言は追いつく際の材料になる。被害者が日本

ン・ベクターのものな巨体の巨人で「元プロレスラーで、K-1ファイター」などのラックを並べ、日本人女性をだるかにしていた。

小川さん失踪後も、夫は捜索願を出さず、周囲に「妻は日本へ帰った」「妻はハワイに移り住んだ」と吹聴する一方で小川さんの婚約指輪や小川さんの遺産相続で得た時の金で購入した高級車を売却するなど不可解な行動も。当局は先月、夫の妻を家宅捜索し、小川さんの財布や日記、小川さんにかかれた生命保険証書を押収した。

人で手抜き捜査の心配があるかもしれないが、逆に捜査が甘いと思われたくない姿がネットが当局にはあるべく(荒木氏)

小川さんの無念を晴らすかどうかが頭蓋骨と当局の本気度にかかっている。

(小林宏隆)

